

立命館 災害復興支援室 瓦版

かわらばん

【第4号】 2012年2月17日発行

【立命館・遠野拠点後方支援プロジェクト】

レポート 後方支援スタッフ派遣

第3便：遠野市と陸前高田市で活動

去る2/5(日)-2/9(金)立命館災害復興支援室が企画・運行するボランティアバス「後方支援スタッフ」派遣として、第3便(学生15名、引率職員2名)が岩手県遠野市、および陸前高田市で活動を行いました。

第3便 活動レポート

<被災した学校図書館への献本>

岩手県遠野市では、被災した公立図書館や学校図書館を支援することを目的に、ひろく一般から本の提供を募り、希望した学校図書館に本を届ける「三陸文化復興プロジェクト」を実施しています。

第3便メンバーは、2/7(火)からの2日間、献本された24万冊の図書を、専用システムに順次登録していく作業の他、図書館資料分類の3桁の分類記号の番号をもとに分類し図書にシールを貼る作業、分類された図書を書架に納める作業など、グループに分かれて作業に参加しました。作業拠点では、神奈川大学や遠野まごころネットから派遣されたボランティアの方とともに作業に従事しました。

活動期間中には、三陸文化復興プロジェクトの取材に雑誌「ダ・ヴィンチ」の方々も来られました。



<被災した中学校への本の贈呈に訪問>

2/8(水)の午後には、メンバー代表の2名の学生が、遠野市文化課の職員さんや神奈川大学からのボランティアの方等と共に陸前高田市立気仙中学校への図書贈呈に同行させていただきました。今回は中学校からの要請で、中学生が親しみやすい「ケータイ小説」や、TVドラマのノベライズ本や原作本などを中心に贈呈されました。



気仙中学校は、津波により校舎が全壊し、現在は矢作中学校の校舎で学んでいる状況です。寄贈された本は、寄贈された本の赤い目印のラベルを貼られ、寄贈図書のための特設の書架に保管されています。

<大槌町公文書の修復>

三陸文化復興プロジェクトの作業拠点では、被災し海水に浸かった大槌町議会の公文書の修復作業も実施し、数名の学生が作業に参加しました。作業は遠野市の文化財担当の職員の指導のもと、水に浸かって脆くなった文書を一枚づつ丁寧に取り扱いながら、ブラシを使った泥落とし作業の他、文書の脱塩と脱水のための処理をお手伝いさせていただきました。



【引率職員より一言】

三陸文化復興プロジェクトの取り組みは、全国からの温かい思いと被災地をつないでいるという緊張感があり、学生も懸命に取り組んでいました。

取り組みを通じて感じたことは、「人の力が必要ないことはない」ということです。東北は遠い土地ではありますが、一人ひとりができる小さなことを続けていくことが大切だと感じました。(図書館サービス課：石井さんより)

<陸前高田市・中学校の学習支援>

2/7(火)の19時から2時間、陸前高田市内の中学校で実施されている自習スペース「学びの部屋」事業にも、第3便メンバーはボランティアとして、市内の2拠点に訪問し、中学生たちの宿題や受験勉強のサポートを実施しました。スタッフは手分けして得意な教科を教えただけで、テレビや学校についての話題で盛り上がる一角もありました。

【参加した学生より】

Q: 今回のボランティアに参加して:
自分自身は福島で被災したが、津波の被害は受けていないため、実際に現地へ行き、自分たちの被害とは到底比べものにならないと感じた。メディアが報じている被災地の状況だけで理解しているつもりになっていても、自分の足でその土地を踏まなければ何も理解できないと思った。人それぞれ感じることは違うと思うが、忙しさを理由に被災地へ出向かないようなことはしてほしくないと思った。
今まで自分も実際に震災を経験しない人には何も分からない、同情はしてほしくないと思っていた。しかし参加後は、全ての痛みを共有することはできなくても、少しでも分かち合うことはできるかもしれないと感じることができた。(産業社会学部・Mさんより)

【災害復興支援室より】

春期休暇中のボランティアバスは、ホームページやfacebook等で1月中旬より開始しましたが、どの便も2、3日の間に定員が埋まり、学生の皆さんの関心の高さを感じています。
参加申し込みをする学生は、1、2回生が多く、またボランティアが全く始めてという学生も少なくありません。中には「社会に出るまでに被災地の状況を自分の目で見て理解しておきたい」との思いで応募する現4回生もいて、被災地でのボランティア活動の機会を様々な学生が希望している状況も把握できました。
これからも引き続き、東日本大震災に関するボランティアの機会づくりに取り組んで参りますので、学内の皆様にもご理解やご協力をいただければ幸いです。(総合企画課：北川より)

<私たちの提案>進捗レポート
立命館宇治中学・高等学校

宮城県多賀城市仮設住宅を訪問

東日本大震災復興のための『私たちの提案-教職員の取り組み-』第1次および第2次採択プログラム「鳳凰杯を通じた被災地の中学校・高等学校との交流」として、1/27-29



に、立命館中・高あわせ25名の生徒が宮城県多賀城市を訪れました。
生徒たちは、昨年夏にも訪問した国府多賀城仮設住宅で支援物資を配布したほか、山王市菅住宅跡地仮設住宅では、京風雑煮(白味噌)をふるまったり、宇治のお茶と関西のお菓子でお茶会をひらいたりした他、一緒に書初めをするなどのイベントを実施し、たくさんの仮設住宅の方々にご参加いただきました。現地での活動には、これまでも交流のあった秀光中等教育学校から3名の生徒も合流し共に活動を行いました。
取り組みの担当職員の方からも、これまで学校あげ取り組んできた募金活動のお金を使って顔の見える支援ができたほか、今後も継続的な取り組みができる契機にもなり、また今回参加できなかった生徒たちも、募金活動に協力し、支援物資に手紙を書く活動に参加するなど、学校全体の取り組みとして盛り上げていくことができたレポートをいただいています。
詳細は宇治中学・高等学校のHPで紹介されており、参加した生徒たちの声も聞くことができます。ぜひご覧ください。

スポーツ健康科学部の取り組みが文科省「復興教育支援事業」に採択されました

岩手県大船渡市との連携のもと、昨年から進められてきたスポーツ健康科学部の取り組みが、文部科学省で公募された「復興教育支援事業」に採択され、早速、2/11-14の日程でスポーツ健康科学部の教員4名、院生2名、学生4名、職員2名が大船渡市立第一中学校および大船渡中学校を訪問し、実際に学生を対象とした簡易体力測定やトレーニングのレクチャーの実施、教員を対象とした説明会を開くなど、生徒の運動・健康面の向上を支援に取り組みしました。



この取り組みは、学校のグラウンドに仮設住宅が設置されたことにより、運動部活動及び体育授業が体育館しか利用できないような限られた施設の中で、より効果的な学校体育が実施できる新たなカリキュラムを提案するとともに、それによる体力テストの考案等を行うことを目的とするもので、2/12には第一中学校の卓球部、バスケット部、サッカー部、テニス部などの部活動を行う生徒約90名を対象に、体力テストを実施。翌日2/13にも第一中学校を訪問し、今度は1・2年生約160名を対象に同様の体力テストを実施しました。また2/13には、大船渡中学校も訪問し、教員の皆さんを対象に体力向上のためのトレーニングプログラム指導などを実施しました。詳細は学園HPピックアップでも紹介されています。

連続ワークショップ「減災社会の地域デザイン」開催

2月4日から4週間にわたり、BKCを拠点にして「減災社会の地域デザイン」と題した参加型の学びの場が開かれています。これは教職員による「私たちの提案」に採択されたものです。いざという時の災いを防ぐ「防災」から、まさかのことをいつも考えることで災いの被害を減らす「減災」への発想を知り、行動の選択肢を広げようという意図で、草津市役所に設置された草津未来研究所との共催で実施されています。

初回には本学の山形大学との「スマイルエンジン」プログラムでもお世話になった小山龍介さんが即興演劇の手法を交えて、ネットとリアルな場をつなぐ意味を、2回目は草津市役所周辺のまち歩きを行い、コミュニティデザイナーの山崎亮さんと共に、見慣れた風景に公共空間を見つける眼差しを、それぞれ深めました。
18日(永田宏和/プラス・アーツ代表)、25日(戸羽太/陸前高田市市長など)、26日(八重樫綾子/いわてGINGA-NET代表など)と、復興の現場に向き合う方々を招く、学びの場は続きます。詳細は災害復興支援室のホームページをご覧ください。



これからの主な取り組み

災害復興支援室・後方支援スタッフ派遣(ボランティアバス)春期便
第4便・・・2/19(日)-2/24(金)理工学部宗本准教授の仮設住宅への簡易集会所建設において、立命館とのご縁ができた宮古市において活動を予定しています。
第5便・・・3/1(木)-3/6(火)、第6便・・・3/22(木)-3/27(火)も引き続き運行。
2/22-24応用人間科学科「特別支援教育の再生と創造に向けて」
応用人間科学研究科谷晋二教授と院生の太西康太さんが仙台市立寺岡小学校を訪問し、特別支援教育にかかわる教員とのミーティングや授業参観と教員とのコンサルテーション、障がいのある子どもを持つ家庭への訪問とコンサルテーションなどの活動を実施します。
3/13 立命館中学・高等学校 震災復興支援プロジェクト企画 「3.11から1年、今、私たちにできること」(仮称)～講演会と応援メッセージを届ける集会～
「今、私たちにできること」を改めて考える機会とし、中高の生徒会と学校が協力し、講演会およびメッセージを届ける集会を開催。13:00より、場所は立命館中高記念ホールにて。
<それぞれの取り組みの詳細については、今後HPや瓦版でお伝えします>

立命館では東日本大震災発生後、被災地域の大学からの支援要請など、緊急的・総合的に判断・対応が必要なものや、学生のボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートなど、学内外の情報を整理し具体化していく必要性があると判断し、2011年4月21日に、「立命館災害復興支援室」を設置しています。

編集後記

福島原発事故による影響が心配される中、立命館でも放射線測定を開始します。そのため測定器が先日届きました。思ったより小さなものでビックリ!これから朱雀キャンパス南側守衛室横に設置の予定です。測定器は近日常にいつも笑顔の守衛さんの横で活躍します。ぜひ通りがかりの際は覗いてみてください。

立命館大学災害復興支援室瓦版【第4号】
発行人・編集 立命館災害復興支援室
075-813-8130(総合企画課内)
メール 311fukko@st.ritsumeiji.ac.jp